

相模原市新斎場整備基本計画(素案)

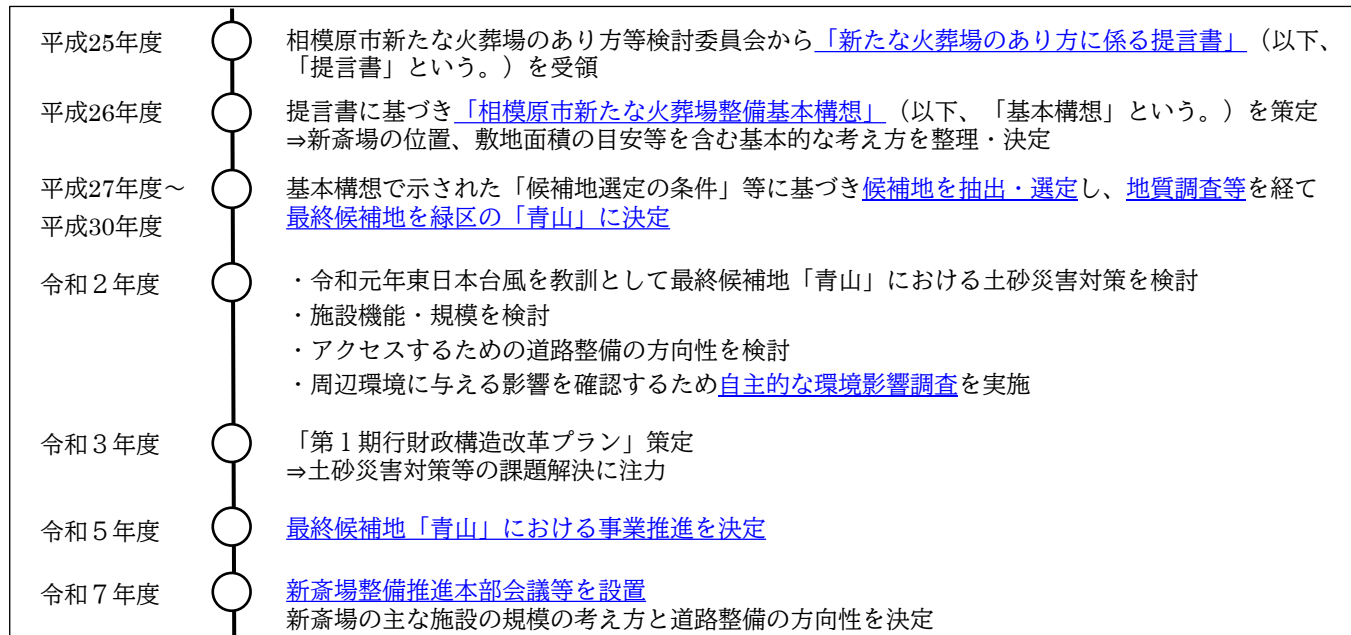
— 概要版 —

第1章 新斎場整備の基本方針

計画の目的・検討の経緯

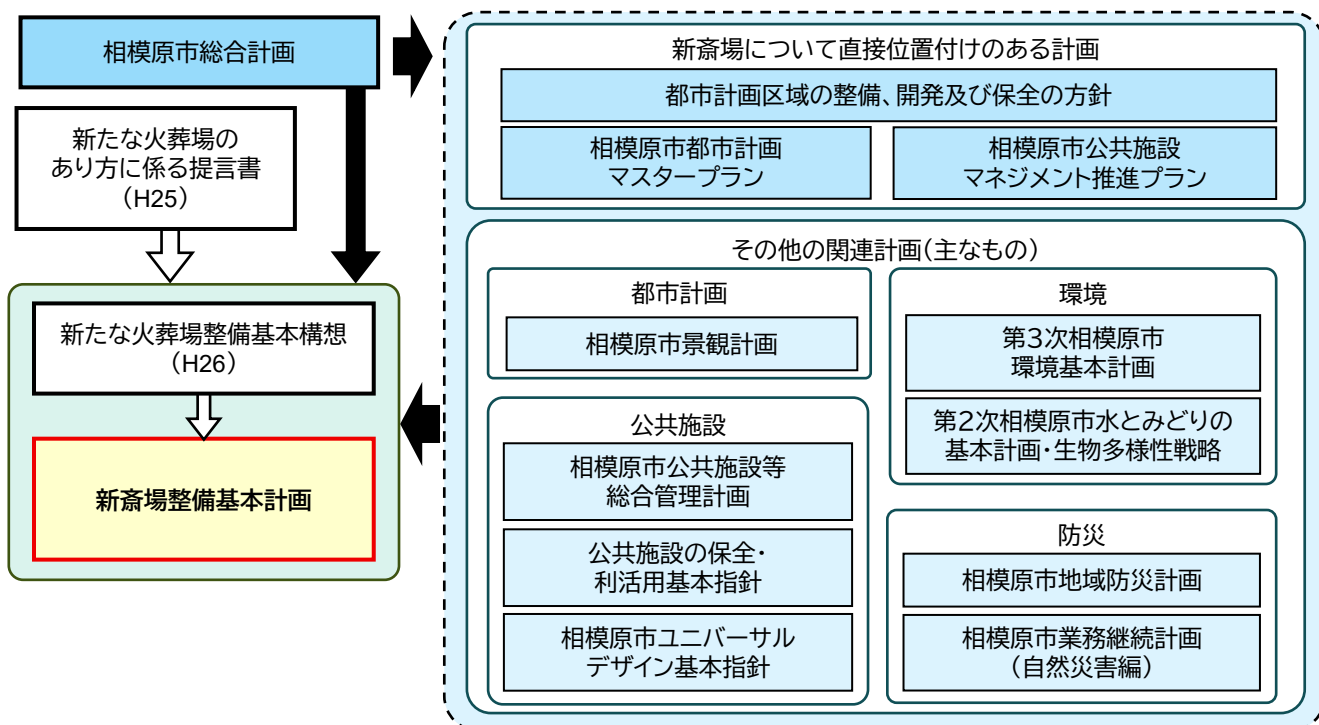
火葬場は、市民生活に不可欠な施設です。相模原市(以下、「本市」という。)では、相模原市営斎場(以下、「既存斎場」という。)1施設で火葬需要に対応してきましたが、今後の高齢化による需要増加を見据え、火葬場の整備・充実が必要となっています。本計画は、市民が安心して利用できる新斎場の整備に向け、施設機能や整備条件を整理・明確化することを目的に策定します。

■ 新斎場に係る検討の状況



計画の位置付け

■ 基本計画の位置付け



■ コンセプト・概念図

丹沢山地の豊かな自然と
清らかな水に抱かれ、
崇高な旅立ちにやさしく寄り添う

地域にとって大切な郷土・景観・自然を守りつつ、
葬家・会葬者の心象に寄り添い
人生の終焉の場として
厳かに故人をお見送りできる、
将来にわたり社会課題に
柔軟に対応可能な斎場を目指す



■ 基本方針

利用者・地域	● 葬家・会葬者に寄り添い故人と静かに向き合える斎場 - 施設内の動線分離や諸室の個室化等により、人生の終焉の場にふさわしい静謐な空間とするとともに葬家・会葬者のプライベート性を高め、故人と心静かに向き合うことができる施設とする。 - 内装の木質化や自然採光等によりあたたかみのある空間とし、心穏やかに最期のお別れができる施設とする。
	● 地域と共存し、市民に親しまれる斎場 - 周囲の山林を借景とし、最後のお別れの場にふさわしい葬送空間とするなど、豊かな自然環境を活かした施設とする。 - 郷土の魅力を感じる意匠等を取り入れ、津久井産材をはじめとした自然素材を内装材として活用するなど、郷土や景観に調和した施設とする。 - 地域との定期的な意見交換を行うなど、地域に開かれた施設とする。
整備・運営	● 将来の火葬需要に柔軟に対応可能な斎場 - 増加する火葬需要に対応可能な火葬能力、諸室等を備えた施設とする。 - 火葬炉の改修時等の火葬能力の維持や、将来需要が推計以上となった場合にも対応可能とするため、予備炉用スペース等を見込んだ施設とする。
	● 効果的な施設の整備・運営が可能な斎場 - 葬儀の小規模化や葬送行為の多様化にも柔軟に対応できる規模の式場など諸室を備えた施設とする。 - 円滑な葬儀・火葬運営を支えるため、事業者や従業員にも利用しやすい施設とする。 - 施設規模の最適化、最新の火葬炉設備の設置や、既存斎場との連携を可能とする仕組みの導入、IoTの活用など、整備・運営の効率化やコスト削減にも配慮した施設とする。
安全・環境	● すべての人にやさしい斎場 - ユニバーサルデザインの考え方等を取り入れ、高齢者や子育て世帯も含めた様々な利用者に配慮した施設とする。 - 施設の特長性も鑑み、従業員専用の休憩室、トイレの設置等、従業員の職場環境に配慮した施設とする。
	● 災害に強く安全・安心な斎場 - 耐震性の確保など、発生が想定される災害への対策を十分に行い、利用者及び従業員の安全を確保した施設とする。 - 非常用発電機の設置等により、災害発生時においても機能継続できる施設とする。
	● 環境に配慮した斎場 - 立地を最大限活かし、再生可能エネルギーの導入や設備・機器の省エネルギー化、敷地内の緑化等により環境にやさしい施設とする。 - 長期にわたり市民に利用される公共施設であることから、適切なメンテナンススペースの確保や耐久性に優れた内外装材の選定などにより維持管理の効率化及び施設の長寿命化を図り、更新・修繕に伴う資源消費や環境負荷の低減に配慮した施設とする。

第2章 既存斎場の概要

敷地・施設の概要

既存斎場は、本市の東部、町田市との境界付近に位置しています。JR古淵駅から徒歩約12分の距離であり、周辺には国道16号および市道淵野辺中和田、ならびに境川が存在します。

■ 既存斎場

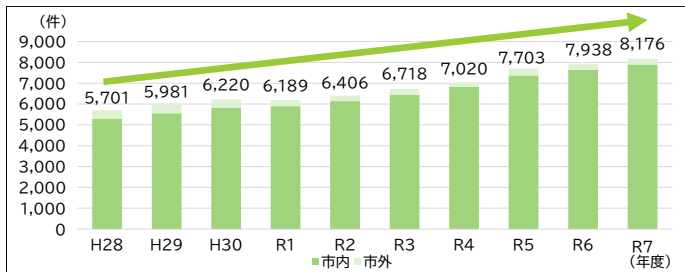


所在地	相模原市南区古淵5-26-1	
供用開始	平成4年10月(築33年 ※令和7年10月時点)	
建築/延床面積	2,942㎡／4,256 ㎡	
主要施設	火葬炉施設	火葬炉11基(一般用10基、胎児炉1基)、炉前ホール1か所、告別ホール3か所、収骨室3室
	葬儀施設	大式場(100名用)小式場(70名用)各式場控室あり
	待合施設	待合室12室、待合ロビー等
	霊安室	1室(保冷库4基)
	駐車場	合計約140台(内マイクロバス7台)

火葬件数の推移

平成28年度から令和7年度までの火葬件数の推移を右図に示します。死体の火葬件数は約5,700件から約8,200件へ増加しており、約1.4倍となっています。

■ 火葬件数の推移



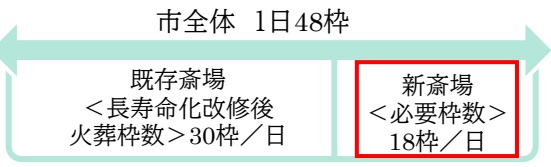
第3章 火葬需要予測と火葬予約枠数

火葬需要予測・火葬予約枠数

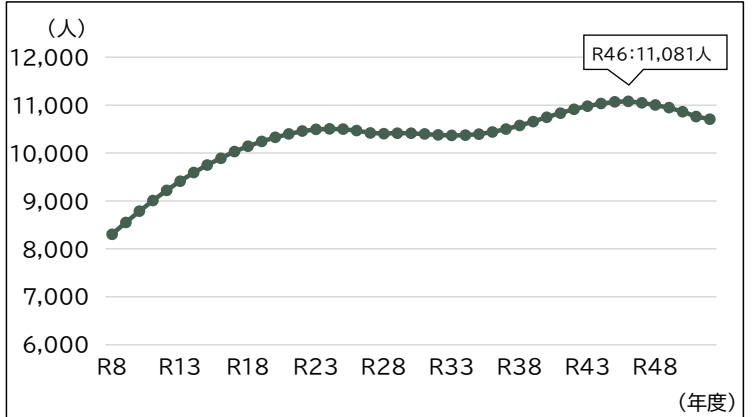
本市の死亡者数は今後も増加傾向が続き、令和46年度には約11,000人に達すると予想されています。その後は緩やかに減少する見込みですが、当面は火葬需要の増加への対応が必要となります。

火葬需要と火葬待ち日数の分析結果を踏まえ、市民が希望した日に火葬できることを目指し、既存斎場30枠/日に加え、新斎場では18枠/日の火葬予約枠を確保します。

■ 新斎場整備後の市全体の火葬予約枠数イメージ



■ 市の死亡者数推計



出典: 令和2年国勢調査に基づく相模原市の将来人口推計における年間死亡者数を基に、本計画のために年度で推計

火葬炉数

火葬需要や火葬炉の能力、市民サービス及び経済性を総合的に勘案し、新斎場の火葬炉数は6基とします。なお、将来的な火葬需要の増加や火葬炉改修時に備え、予備炉用スペース2基分を確保するとともに、関連諸室についても増設に対応可能な計画とします。

第4章 予定地の概要

予定地は、現在、学校法人がグラウンドとして管理している土地及びその周辺の山林です。

新斎場を安全に利用できるよう、新斎場整備に関連して、関連道路及び土砂災害対策施設の整備に向けた検討を別途進めています。

所在地	緑区青山字熊ノ平2193番2 他 (現・帝京大学 青山グラウンド)
事業区域面積	約38,000㎡(敷地面積約21,000㎡)
都市計画区域	相模湖津久井都市計画区域 (非線引き都市計画区域)
用途地域	指定なし
容積率／建蔽率	100％／50％
土砂災害警戒区域	一部指定あり(土砂災害警戒区域(土石流)、土砂災害特別警戒区域(土石流))

■ 新斎場の位置

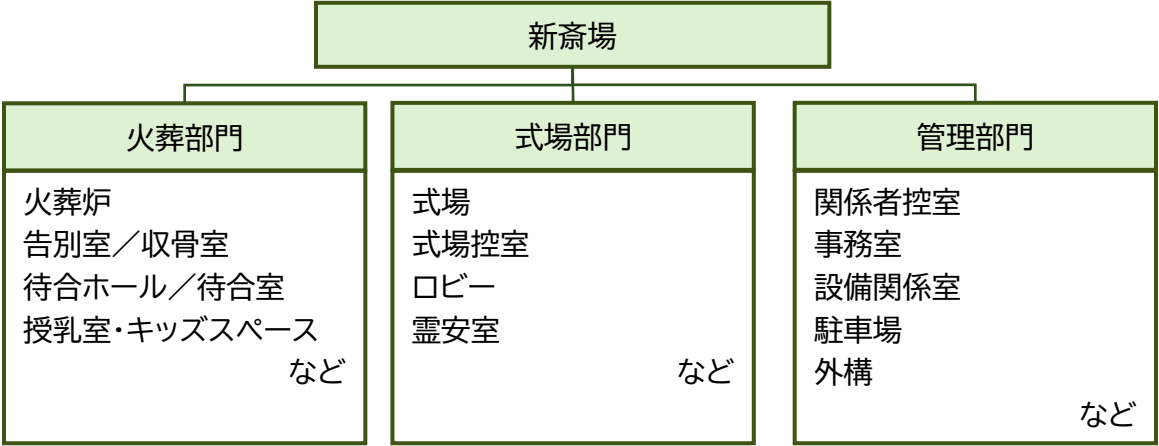


第5章 施設・設備計画

新斎場の部門別構想・規模

新斎場は、火葬部門・式場部門・管理部門にて構成します。

■ 新斎場を構成する3部門



■ 部門別構想

● 火葬部門
・ 告別から火葬、収骨に至る一連の葬送行為が円滑かつ厳粛に執り行われるよう、故人と静かに向き合うことができる動線や空間構成とするとともに、故人とのお別れにふさわしい環境を整えます。
・ 火葬中の時間を心穏やかに過ごすことができるよう、プライバシーや快適性に配慮するとともに、周辺の豊かな自然を感じられる空間を形成します。
● 式場部門
・ 通夜や告別式などの葬送行為を執り行う場として、厳粛性と落ち着きに配慮した空間を形成します。
・ 葬家と会葬者それぞれの利用に配慮した動線とし、円滑な式の進行と快適な利用環境を確保します。
● 管理部門
・ 施設全体の円滑かつ安定的な運営を支えるため、業務の効率性や安全性に配慮した計画とします。
・ 来場者が安全かつ円滑に移動できるよう、車両と歩行者の動線分離に配慮するとともに、景観との調和を図り、落ち着きとやすらぎを感じられる外部空間を形成します。
● その他(施設全体に共通する機能と方針)
・ ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、すべての来場者が安全かつ円滑に利用できる施設とします。
・ 利用者と事業者の動線分離や見やすいサイン表示により、誰もが利用しやすい環境を整備します。
・ 再生可能エネルギーの活用や省エネルギー化により環境負荷の低減を図るとともに、維持管理や更新のしやすさに配慮した施設とします。

第6章 土地利用計画

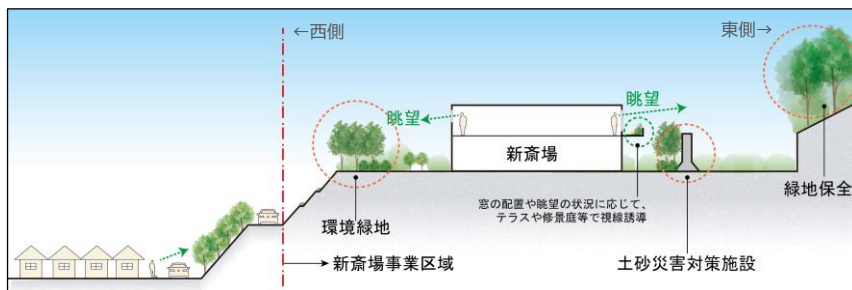
環境緑地計画

津久井地区の豊かな自然環境との調和を図るため、住環境への影響低減や自然環境の保全に配慮するとともに、利用者が安らぎを感じられる環境緑地を整備します。

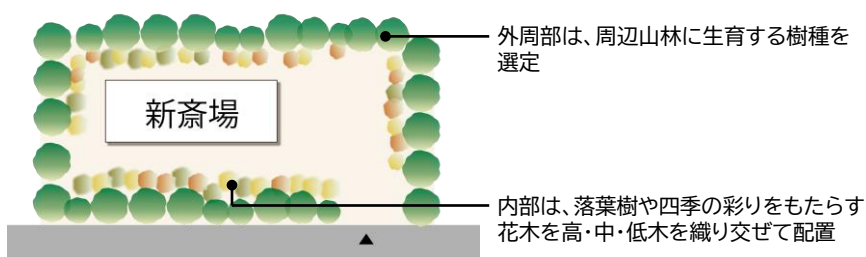
また、コンセプトに掲げたとおり、将来にわたって地域の方々が厳かに故人をお見送りできる斎場を目指し、事業区域内に周辺の山林の一部を取り込み保全することで、新斎場にふさわしい環境の確保を図ります。

さらに、利用者が敷地内を移動する際も、植栽計画により緑に包まれながら建築物のエントランスへ導くなど、ご遺族の心情に配慮した緩やかなアプローチ動線とします。

■ 断面イメージ



■ 平面イメージ

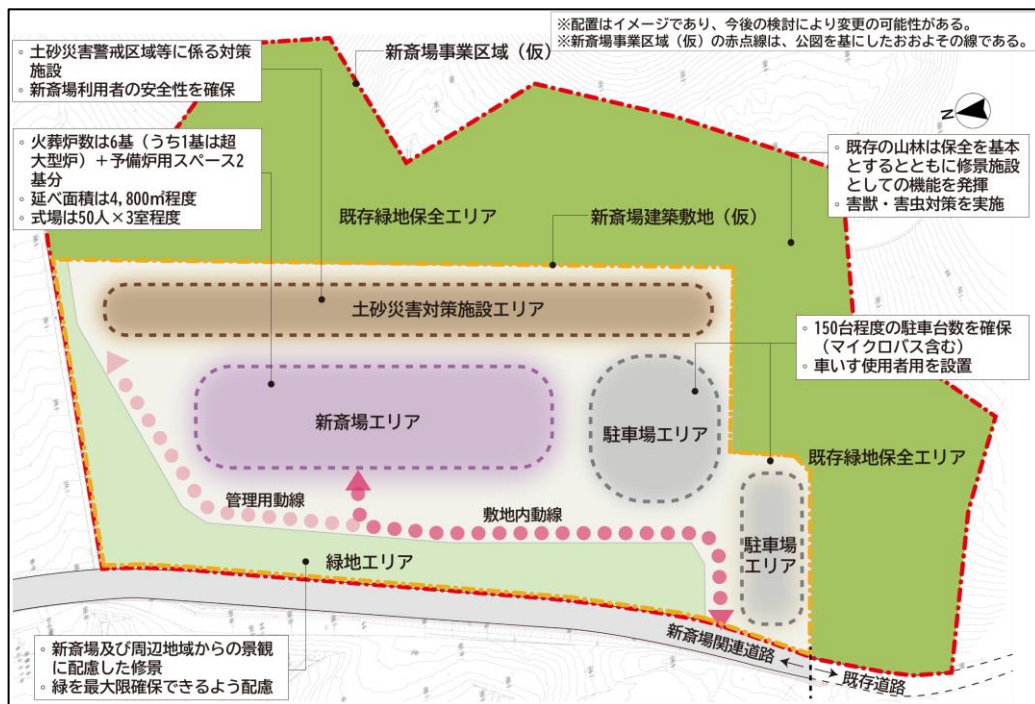


土地利用計画図

既存グラウンド部を中心に新斎場、駐車場及び土砂災害対策施設を配置し、その他の区域は環境緑地として東部・南部の既存山林の保全や緑化を図ります。

なお、必要に応じて事業区域外の補助的・付帯的な土地の確保について検討します。

■ 土地利用計画図

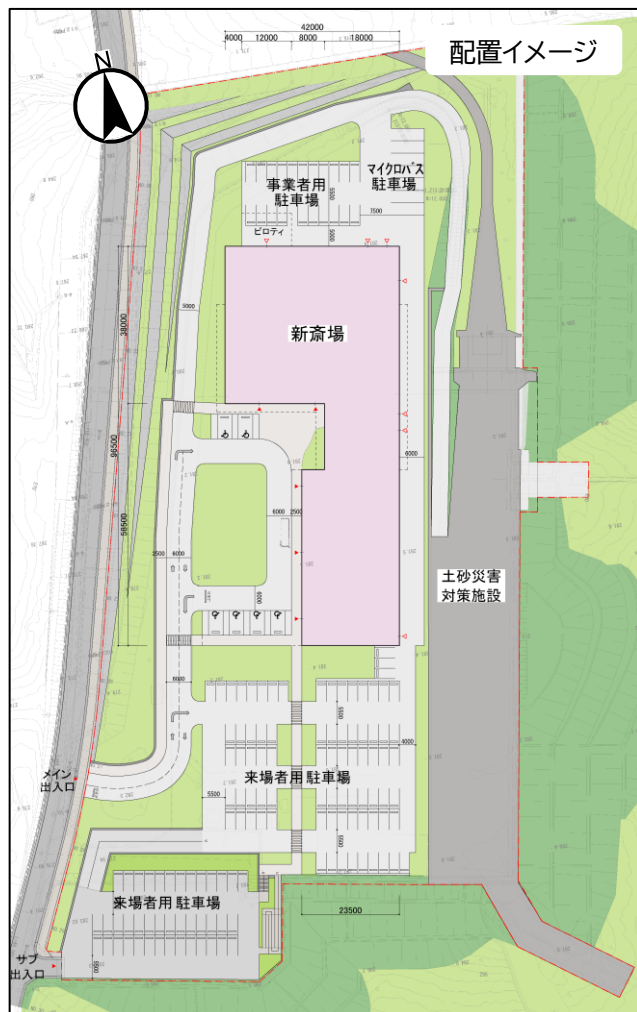


新斎場建物	
延床面積：4,800㎡程度	
駐車場	
150台程度 (マイクロバス含む)	
環境緑地	経営許可
	建築敷地面積の25%以上
	開発基準条例
	建築敷地面積の20%以上
その他	敷地の約60% (基本構想で設定)
受水槽	
必要容量：約12㎡	
雨水調整池	
雨水調整池設計基準に基づく	

第7章 造成・基盤整備計画

- ・ 造成範囲を最小限とするため、新斎場、駐車場、土砂災害対策施設は平場部に設けることを基本とします。
- ・ 事業区域内で切土・盛土の土量バランスを図り、残土処分量を極力抑制します。
- ・ 敷地内の勾配を適切に設定し、雨水が円滑に流れるよう配慮します。
- ・ 周辺の景観や自然環境に配慮し、既存樹木の保全や緑地の確保に配慮します。
- ・ 前面道路（関連道路）との円滑な接続が可能な高さとしています。

新斎場の配置図、施設イメージを検討しました。新斎場の延床面積は約4,800㎡となります。
なお、あくまで現時点でのイメージになりますので、実際の配置図等は設計段階で改めて作成します。



第9章 環境保全計画

新斎場整備による周辺環境

新斎場の整備に伴う周辺環境への影響を確認するため、令和2年度に自主的な環境影響調査を実施しました。本調査では、大気質や騒音、振動、地表水等の項目について評価をしており、いずれの項目でも目標値等を満足すると予測され、新斎場整備に伴う影響は少ないものと確認されました。

環境評価項目(工事中)		環境評価項目(供用後)		
大気質	騒音	大気質	騒音	振動
振動	動物	悪臭	地表水	動物
交通混雑	交通安全	危険物	交通混雑	交通安全

環境保全目標値

新斎場の供用開始後においても良好な周辺環境を維持するため、環境保全目標値を設定します。供用開始後は、当該目標値を満足するよう、適切な施設運営に努めます。

第10章 防災・避難計画

項目	対象	対策
災害対策	地震	建築物及び火葬炉設備に必要な耐震性能を確保するとともに、非構造部材の落下・飛散防止対策を講じます。また、非常用発電設備等を整備し、ライフライン途絶時の機能維持に配慮します。
	風水害	浸水対策や適切な排水計画、土砂災害対策を講じるとともに、飛散・強風対策により設備機能の維持に配慮します。
安全確保		利用者及び職員の人命の安全確保を最優先とし、状況に応じた適切な初動対応、避難判断及び避難誘導を行います。また、防災備蓄を行い、一時的な施設内滞在にも対応します。
土砂災害対策 施設の管理		定期的な点検により施設の老朽化や変状等を確認し、必要な対応を行うことで施設の健全性を維持します。
連携体制		災害等の発生時においても円滑に連携できるよう、新斎場と既存斎場の相互応援体制を整備します。

第11章 運営計画

項目	対策
新斎場における 業務内容	火葬業務を中心に、受付、告別・収骨、待合、式場利用等の各種業務を適切に実施し、利用者の利便性向上及び安定的な施設運営を図ります。
斎場予約システム	予約業務の円滑化及び利用者の利便性向上に向け、予約システムを導入することを検討します。
将来的な大規模改修	計画的な改修及び適切な維持管理を推進するとともに、大規模改修時においても火葬業務を継続できるよう配慮した施設計画とします。
冬期対策	積雪時においても安全に利用できるよう施設形状に配慮するとともに、除雪等の対策や利用者への注意喚起を行います。
害獣・害虫対策	フェンスの設置等により野生動物の侵入防止を図るとともに、害虫についても発生の防止及び施設内への侵入防止を図ります。

今年度実施している民間活力導入可能性調査の結果を踏まえて記載予定

第13章 概算事業費

近年の類似事例等に基づき算出した本事業の概算事業費は、約99.3億円(税込)になります。
本試算は、現時点の概ねの事業規模を把握する目的の試算であり、今後の物価変動は見込んでいません。
また、具体の建築計画、仕様等は未定の部分もあることから、今後の検討にあわせ適宜精査していきます。

■ 概算事業費(R8年度時点)

費用区分	合計(税込) 【消費税10%】
概算工事費	77.6 億円
設計・工事監理費	4.6 億円
その他調査等費	0.5 億円
関連施設整備費	16.6 億円
合計	99.3 億円

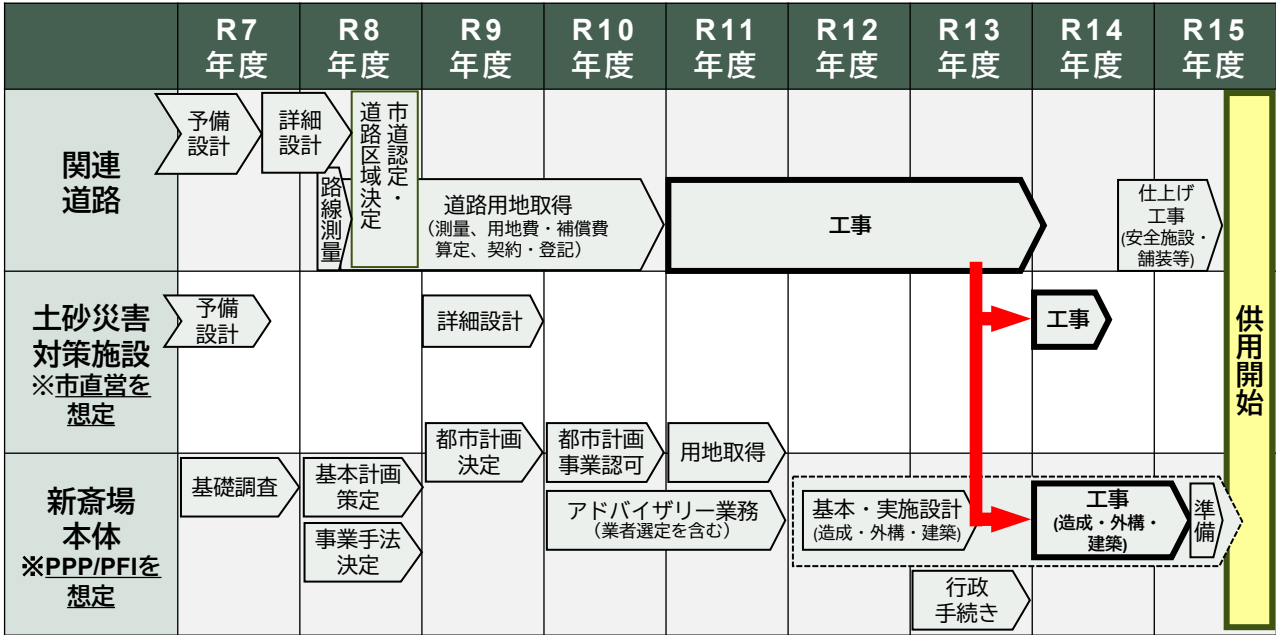
※用地取得費は除く。
※関連施設整備費は、関連道路整備費、土砂災害対策施設整備費、インフラ整備費を含む。

第14章 事業スケジュール

今後は、関連道路の整備を進めた後、新斎場本体及び土砂災害対策施設の整備に着手し、令和15年度頃の供用開始を目指します。

令和8年5月28日 新斎場整備推進本部会議時点の仮案を掲載
(事業スキームの決定後に確定版スケジュールを掲載)

■ 事業スケジュール



※本スケジュールは現時点での予定であり、今後の進捗により変更となる場合がある。

■ お問い合わせ先

相模原市 市民局 新斎場整備課
相模原市中央区中央2-11-15 市役所第2別館4階 電話:042-707-7027